

自分がなにじんでも

中二

「あなたってなにじん？」

そう聞かれたことが何回かあります。私は父がスウェーデン人、母が日本人のハーフです。私のように両親の国籍が異なる子供は、日本ではハーフと呼ばれたりしますが、場合によってはミックス、ダブルと呼ばれることもあります。それは、ハーフ＝半分で未熟だったり、足りない印象があったりするからだそうです。私の学校にもいろいろな国のミックスや外国人の生徒が何人もいて、みんな同じように学び、活動しています。私はハーフと呼ばれることに抵抗がなく、嫌な思いもしたことはありません。そんな私は、日本とスウェーデンの国籍をもっていて、二十歳までにどちらか一方の国籍を選ぶことになります。どちらの国籍を選んで生きていくとしても、自分の将来に暗いイメージはありません。でもそれは、人によるのかもしれないと思うことがあります。

自分についてぼんやり考えていた頃、日本に住

む外国人についての記事をインターネットで読みました。残念ながら、事件や事故のニュースでした。日本に住む特定の国籍や人種の人が悪く言われたりしていると感じていましたが、そのような事件や事故が続くと、同じ日本人同士の事件や事故よりも「その国やその国籍の人が悪い。」というような印象が残りやすいなとも思いました。そしてよいニュースよりも悪いニュースのほうが広まりやすいとも思います。

日本には、外国人が多く住む地域があちこちにあります。今までの地域に住む日本人とよい関係を築いてきたはずなのに、いくつかの事故やトラブルのせいで、多くのよい外国人よりも、そうではない人の印象が強くなっています。そこに住む人たちに対する気持ちが冷たくなり、その人たちが今までできていたことや付き合ってきた人たちから日本人が離れていっているとも聞きます。日本で店を開いたり、働いたりしていた人たちに対して、私たちが都合よく視野を狭くして、誰かの権利を奪っている可能性があります。その国の人の子だからという理由でいじめられているとも聞きました。

世界のいくつかの国や地域では、長く戦争が続いていますが、ある国の父親をもつ友達がとても気まずそうにしていたことがあります。戦争はゲームではありません。どちらかを応援するものではなく、争いが解決することを願うものですが、その頃はメディアやイメージ、国の規模の問題で友達の親の国が悪く言われることが多く、遠く離れた日本に住む、全く関係のない友達まで間接的に国同士の争いに巻きこまれた形になりました。もし、その友達の近くに、争いの敵になっている国の人がいたら、その友達はずっと苦しい状況になっていたかもしれません。国同士の争いも、場所が変わると個人を傷つけることになる、そのとき感じました。それが個人対大勢だったら、その人の人生を変えてしまうかもしれません。大多数の意見やイメージに流されて、普通に暮らす人の権利を奪う例のひとつだと思います。

新しい病気が世界に広まったときも、特定の国が叩かれたり、悪く言われたりする時期がありました。それはその国籍を持つ人たちのせいではなく、私たちと同じように体調を崩したり、亡くなったたりした人も多くいました。その国の全てが

悪いように言われて、居心地の悪い時間を何年も過ごした人が日本にも多くいたはず。その国の出身の人たちが今までどおり、日本でうまく暮らしていく権利が奪われた時期だと思います。

日本は島国なので、陸が繋がっている他の国がありません。日本にいるのは日本人とそれ以外という考え方がどうしても強い気がします。その分、受け入れる心や視野を広くもつことのハードルが少し高い気がします。「いろいろな人たちがいる」国になってきているのに、気持ちがついていけないようにも思えます。その人個人を尊重するべきときでも、たくさん意見に流されて、だれかの権利や安定を無意識で奪っていることに気付かない人がどうしてもいます。

先に書いたように、私がつ二つの国籍について、不満や辛い経験はありませんが、それはたまたま今まで何もなかったからだと思付きました。もし、日本人に偏見のある国に私が住んでいたなら、気持ちに反して私は日本国籍を選ばないかもしれません。同じように日本に住む日本人以外の人たちが、自分の国籍をごまかしたり、隠したりしたくなるようなことがあつてはならないと思います。

何も悪いことをしていない人たちが、国籍や出身を知られることで避けられたり、断られたり、軽く見られたりするような権利の奪われ方をしない国であるべきです。外見や文化の違い、考え方や価値観を理解し近づき合って、差別や偏見という国境がない日本になっていけばいいと思います。